

資源・エネルギー問題—限りある資源と環境への配慮**本単元で育成する資質・能力**

情報活用能力・思考力・判断力・表現力

- 1 日 時 令和2年1月15日（水） 6時間目
- 2 学年・学級 3年A組（男子13人 女子18人 計31人）
- 3 単元名 地球社会と私たち さまざまな国際問題
（新編新しい社会 公民 東京書籍）

4 本単元を指導するにあたって

本単元は、中学校学習指導要領社会（平成29年）2内容 D私たちと国際社会の諸課題（1）世界平和と人類の福祉の増大（内容の取扱い）ア（イ）「地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解すること」を受けて設定している。

本単元では国際社会に対する理解を深めることができるようにし、国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想、表現できるようにするとともに、人類の一員としてよりよい社会を築いていくために解決しなければならない様々な課題について、社会的な見方・考え方を働かせ、自分の考えを説明、論述できるようにすることを主なねらいとしている。指導に際しては課題の解決に向けて探究し、自分の考えを説明、論述できるようにすることが大切であり、適切かつ十分な授業時数を配当することが必要であるとしている。

本校の研究テーマは『「主体的に学ぶ生徒を育成する授業づくり」～『学習の振り返り』を通して学びを深める生徒の育成～』である。本時の中では、振り返る場面を2回設定している。1回目は授業の最初で実施する。前時までに学習した内容を振り返り、本時の学習で取り組む課題を把握させる。2回目は班の意見を発表したり、質問を受けたりした後の活動である。質問を受けることにより、自分たちの意見を振り返り、より深く充実した意見を構築していくことができる。3回目は授業の終末で実施する。学習を振り返り、課題に対する自分の考えを記述させる。その際単元の学習前の記述と比較させて、学習の深まりを実感させたいと考える。

指導にあたっては、エネルギー問題に対して、資料の読み取りやグループ活動を通して多面的・多角的に考えられるような場面を設定する。また、5時間扱いとし、じっくり課題に向き合うようにした。理科の教員との授業も設定し教科を超えて課題に取り組みたい。この学習を通して、社会的な見方・考え方の1つである「持続可能性」に視点を置き、資料を活用し論理的に考える力や、自分の考えを表現する力を養っていききたい。

本単元で学習する課題に対して、授業内でのアンケートで全員が原子力発電は良くない、再稼働すべきでないと考えている。これは西暦2011年3月11日東日本大震災時に発生した福島原子力発電所の事故によると考えられる。しかし、現在の日本のエネルギー政策の事情や化石燃料の採掘可能年数、資源の価格等を考慮したり、他国の発電構成などを学習したりすることで原子力発電の是非について社会的視点から考えさせ、根拠をもって判断する力を育てたい。

【生徒の主体的な学びを促すポイント】

- エネルギー問題について5時間扱いとし、じっくり考える場面を設定する。

- 他教科（理科・技術家庭科・英語科）との学習内容や関連を意識し、幅広い視点を与える。
- 理科の教員とのT・Tを行い、多面的・多角的に考えるための素地を育成する。

【基礎・基本の定着】

（１）習得すべき基礎・基本について

- 国際社会の諸問題（地球環境、資源エネルギー、貧困、紛争など）について理解している。
- 国際社会の諸問題の解決に向けた取組について理解している。
- 国際社会の諸問題について、関連する資料の読み取りができる。

（２）定着への手立て

- 視覚的支援を行う。見やすい写真や資料を準備する。
- 班で教え合ったり、説明したりする活動を行う。

5 単元の目標

- 国際社会の諸問題（地球環境、資源エネルギー、貧困、紛争など）について関心をもち、日本の果たすべき役割や個人としての関わり方について、意欲的に考えている。
- 国際社会の諸問題を解決して持続可能な社会を築いていくためにはどうすればよいか自分の考えをまとめることができる。
- 国際社会の諸問題について、写真や統計資料を基に的確に読み取ったり、複数の資料を関連付けて課題を捉えたりすることができる。
- 地球環境問題や貧困問題などの主な国際問題のあらましについて理解することができる。

6 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用 of 技能	エ 社会的事象についての知識・理解
国際社会の諸問題（地球環境、資源エネルギー、貧困、紛争など）について関心をもち、日本の果たすべき役割や個人としての関わり方について、意欲的に考えている。	地球環境の保全や日本のエネルギーの在り方、貧困の解消などについて、対立と合意、効率と公正、持続可能な社会などの視点を踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	国際社会の諸問題について、写真や統計資料を基に的確に読み取ったり、複数の資料を関連付けて課題どうしの関係を捉えたり、その解決のための方法について図表などにまとめたりしている。	国際社会の諸問題のあらましと解決に向けての取組について理解するとともに、解決のためには経済的・技術的な協力が大切であることに気付き、その知識を身につけている。

7 本単元を通して伸ばしたい資質・能力

※塩町中学校区では、小中9年間で身に付けさせたい9つの能力を定めている。（重点◎）

塩町中学校区9能力					
① 情報活用能力 (調べてまとめる力)	◎	④判断力 (自分で決める力)	○	⑦体力・継続力 (ねばり強くやりきる力)	
② 発見力 (見つける力)		⑤表現力 (伝える力)	○	⑧人間関係形成能力 (人とかかわる力)	
③ 思考力 (考える力)	◎	⑥将来設計能力 (なりたい自分を描く力)		⑨生活力 (学んだ事を生かす力)	

- 情報活用能力・・・国際社会の諸問題について、資料を基に的確に読み取ることができる。

複数の資料を関連付けて考え、自分の言葉でまとめることができる。

- **思考力**・・・国際社会の諸問題について、対立と合意、効率と公正、持続可能な社会などの視点を踏まえて、多面的・多角的に考察することができる。その過程や結果を適切に表現することができる。
- **判断力**・・・国際社会の諸問題について、多面的・多角的に考察した上で自分の考えをもつことができる。
- **表現力**・・・国際社会の諸問題について、多面的・多角的に考察し、自分の考えをワークシートやノートに書いたり、他人に伝えたり、発表したりすることができる。

8 指導と評価の計画（全9時間）

次	学習内容 (時数)	評 価					
		関	思	技	知	評価規準 (評価方法)	資質・能力
1	【地球環境問題ー持続可能な社会の実現】 ○地球環境問題に関心をもち、解決に向けてどのような取り組みが必要か考える。 (1)	○				ア〔ノート記述〕	思考力 表現力
2	【資源・エネルギー問題 ー限りある資源と環境への配慮】 【日本のエネルギー政策のこれから】						
	「これからの（2050年）日本のエネルギー供給はどうするべきだろう」 ○資源・エネルギー問題について理解する。また、解決に向けて経済的・技術的な協力が大切であることを理解する。(1～5) ○日本のエネルギー事情について資料を基に的確に読み取りまとめる。(1) ○日本のエネルギー政策について、資料(経済面・政治面・外国との関係)に基づいて多面的に捉えまとめる。(2) ○発電による廃棄物処理や環境への配慮に対してどのような取り組みしているか理解する。(3) ○日本のエネルギー供給について、「持続可能性」の視点で多面的・多角的に考察し、自分の考えを深める。【本時】(4) ○日本のエネルギー供給について、「持続可能性」の視点で多面的・多角的に考察し、自分の考えをレポートにまとめる。(5) (5時間扱い)				○	エ〔ノート・行動観察〕 ウ〔ワークシート〕 ア・イ〔ワークシート〕	情報活用能力 思考力 判断力 表現力

評価指標（ルーブリック）							
A (素晴らしい)	・日本のエネルギー供給について、対立と合意、効率と公正の見方・考え方で課題を捉え、「持続可能性」の視点で、自分の考えをワークシートに記述している。						
B (良い)	・日本のエネルギー供給について、「持続可能性」の視点で自分の考えをワークシートに記述している。						
C	・記述なし，誤答						
3	【貧困問題—公正な世界を創る】 ○貧困問題や発展途上国における問題について関心を持ち、自分がどのように関わっていったらよいか考える。 (2)	○	○			ア・イ 〔行動観察・ノート記述〕	思考力 判断力 表現力
4	【新しい戦争—平和な世界に向けて】 ○地域紛争やテロリズムが起こっている原因について多面的多角的に考える。 ○解決に向けての取り組みを理解するとともに、解決のために協力が大切であることに気付き、その知識を身に付けている。 (1)		○		○	イ〔ノート記述〕 エ〔ノート記述〕	思考力

9 本時の展開

(1) 本時の目標

今後の日本のエネルギー供給について、「持続可能な社会」の視点で自分の考えをまとめよう。

(2) 観点別評価規準

日本のエネルギー供給について、「持続可能性」の視点で多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現している。

(3) 準備物

ワークシート・ホワイトボード・ペン・パソコン・モニター

(4) 学習の展開

	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	評価規準 【資質・能力】 (評価方法)
導入	○前時の復習	○前時までのプリントを用意するよう指示する。	
	振り返り①	前時までの学習内容をプリントとパワーポイントで振り返る。 場合によっては黒板にも資料やキーワードを提示しておく。(学習内容については10単元構造図参照)。 →何を学習するのかを知ることで、主体的に学ぶ姿勢につなげる。	

展 開	○本時のめあてを知る。	○今日のめあて（単元の課題）を確認しよう。 ○現在のエネルギー供給のグラフや裁判所の判決資料を提示して、原子力発電の割合がないことや火力発電に頼っている現状を確認する。	
	課題：「原子力発電は再稼働するべきか？しない方がよいか？」		
	○個人思考	○再稼働するべきかどうか、その理由をワークシートに記入させる。 ◆机間巡視をして、意見がまとめられない生徒には次のような支援を行う。	
	○班活動	・前時までのワークシートで原子力発電について記述したものや資料「わたしたちの暮らしとエネルギー」のP 39を見るように指示し、既習事項を想起させる。 ・立場を決められない生徒には、メリットとデメリットに着目させ、どちらが良さそうか決めさせる。 ・理由がうまく書けない生徒には、キーワードや関連する図を示し、理由をイメージさせる。	
	○グループ同士で発表しあう。	○まずは個人の意見を班で発表する。 その後、班で再稼働するべきかどうか立場を決めてその理由をホワイトボードにまとめる。 ●理由を書くときには、短い文もしくはキーワードで書かせる。 ◆話し合いの間は机間巡視で確認し、選んだ立場（再稼働するべきかしない方がよいか）や意見を把握して、次の活動で発表させる組み合わせを決める。（次の活動で意見が異なる班同士で発表させたいため。）	
	【発表の方法】 自分たちの意見を他の班と議論する。 ①班内を2つのグループに分け、AグループとBグループとします。 ②各班のAグループが他の班に行って、説明をしましょう。Bグループは他の班から来た生徒の説明を聞きましょう。 説明を聞く人は必ず1つ以上質問をします。 【質問の視点】 ・説明内容のつじつまが合っているか。 ・自分たちの班と違うところはどこか。 ・よくわからなかったところはどこか。		

	振り返り②	グループ同士で意見交流後の時間 →班の意見を説明した後、質問を受けることで、自分たちの意見の振り返りを行い、更に考えを深めさせる。	
まとめ	○個人思考	○授業を振り返り、本時の課題に対する自分の考えを記述する。	
	振り返り③	（例）私は、原子力発電所の再稼働はした方がよいと思います。現在、火力発電によるエネルギー供給が 85%程度であり、石炭や石油などの化石燃料の可採年数を考慮すると今のエネルギー供給バランスはよくないと考えます。福島原子力発電の事故を考えると再稼働は不安な面もありますが、安全性や高レベル廃棄物の処理を適切にすればよいのではないのでしょうか。	
	○発表する	○隣の人と発表し合う。もしくは、意図的指名で 2・3 人発表させる。	ア・イ 【思考力・表現力】〔ワークシート〕
	○次回にむけて		
	原子力発電をどうするか、この答えを出すのも難しいですね。原子力発電も含め、じゃあみんなが大人になったとき「今から 30 年後の 2050 年日本のエネルギー供給はどうすべきだろう？」次回まとめのレポートを作成しよう。		

資料

経済産業省資源エネルギー庁「わたしたちのくらしとエネルギー」

経済産業省資源エネルギー庁「高レベル放射性廃棄物について考えよう」

経済産業省資源エネルギー庁「日本のエネルギー 2018」